

# Color TSUCHIURA

Combination Life

7 班

村上大輔[TA]

島田達成[班長]

梶谷篤史[主将]

堂下和宏[Cap.]

吉川重和[匠]

山田翔太[リーダー]

## 1. 土浦市の現況と課題

第一回中間発表より、土浦市の現状を分析したところ土浦市には多岐にわたる特徴があることがわかった。筑波山と霞ヶ浦に囲まれた自然に恵まれた土地であり、レンコン生産量は全国 1 を誇る。また歴史的資源も有する県内有数の大都市である。一方で商業集積の衰退、近隣公園の不足、犯罪率の高さ、耕作放棄地の増加、交通混雑など問題となる特徴も多く存在した。これらの問題は土浦全体に遍在しているものであると考え、各地域の特徴を活かした提案を行う必要がある。

## 2. まちづくりコンセプト

土浦を鮮やかに色づける

ツナガった生活へ

### A. 将来都市像

土浦市には神立や新治など特徴的な性格をもった地域がある。しかし現状ではそれらの個性を十分に活かすことが出来ていない。そこで、「地域の個性活かすまち」「地域と地域つながるまち」を目標とし、「地域同士が長所・短所を補い合いさまざまな生活スタイルを提供する」ことにより、市全体としてバランスのとれたまちを目指す。

### B. 基本理念

- ✓ 地域をほこれるまちづくり  
地域の特色を最大限活かし、市民がほこりを持って生活できるようなまちづくりを進める。
- ✓ 地域、人、モノがつながるまちづくり  
地域や人、モノがさかんに交流し、ふれあい、様々なつながりのあるまちづくりを進める。
- ✓ 安心で快適に暮らせるまちづくり  
市民が安心・安全で快適な暮らしをおくることができ、やすらぎのあるまちづくりを進める

## 3. 地区別基本構想

土浦市を地域の特色ごとに、以下の 5 地域に分けて考える。



### A. 土浦駅周辺地区

#### ● 現況

土浦駅周辺に商業集積があるが、大規模商業施設の相次ぐ衰退や都市機能の郊外移転で活気がない。歴史的遺産は多いが、まちかど蔵のように整備されたものは少ない。また、他地域に

比べて自然も少ない。

#### ● まちづくりの方向性

歩きたくなる街をテーマに、通過交通の排除など歩行空間の充実化を図り、商業集積に相応しい魅力ある空間を創出する。また、地元農産物や工業製品を販売するなど地域の魅力を再認識する場を提供する。

### B. 新治周辺地区

#### ● 現況

全域に農村が広がり集落が点在しており、筑波山麓には豊かな自然や里の景観が残っている。また、国道125号沿いは市街地化が進んでいる。幹線道路の整備は進んでいるが、公共交通が路線バス1路線のみと脆弱である。

#### ● まちづくりの方向性

豊かな自然と農村環境を活かした心のふるさとづくりを進め、産業としての農業だけでなく、都市住民との交流の場としての農村を目指す。

### C. 神立周辺地区

#### ● 現況

幹線道路沿いに日立関連企業を中心とした工場が立ち並び、しかし、一本道を入れば住宅地が近接。住宅地には公園も少なく、住環境として不十分。

#### ● まちづくりの方向性

住環境として公園の新設、また工場との共生を目指す。

### D. 荒川沖周辺地区

#### ● 現況

戸建住宅を中心とした閑静な住宅街であるが、幹線道路沿いにはロードサイドショップが立ち並び、交通量が多い。荒川沖駅は学校への最寄り駅としても機能している。

#### ● まちづくりの方向性

子育て支援、近隣公園やオープンスペースの整備などで安心安全な生活環境を提供する。また、6号バイパスの整備やつくば、阿見へのアクセス向上も図る。

### E. 霞ヶ浦周辺地区

#### ● 現況

土浦駅東口にはホテルや業務ビルが立地している。霞ヶ浦湖畔では広大なハス田でレンコン栽培が行われている。県道263号線での交通混雑や多くの未舗装の道路などが存在している。川口総合公園・霞ヶ浦総合公園など公園は多いが利用者は少ない。

#### ● まちづくりの方向性

土浦駅東口駅前空間の有効活用と活性化を図る。県道263号の混雑緩和、生活道路の拡幅など交通対策を強化。また、霞ヶ浦や湖畔を活かした憩いの場を創出する。

## 4. 重点整備計画

### A. 交通重点整備計画「土浦交通ネット」

#### ● 現状と課題

市内を南北に国道6号と常磐自動車道、東西に国道125号が走るのに加えて、国道354号や学園東大通りなど幹線道路も集まっ

ており、自動車交通網は充実している。しかしながら、これら幹線道路を中心に、通過交通と域内交通の集中で渋滞が慢性化し、利便性を大きく損ねている。また、公共交通においても、南北にJR常磐線が走り、その駅を結節点として路線バス網が発達している。土浦駅周辺の中心市街地には循環バスが、また、市内の高齢者向けには乗合タクシーが運行されている。しかし、路線設定や運賃設定が利用しづらいものとなっている。

したがって、公共交通の利用促進で交通集中を緩和するとともに、これから増加していく高齢者など交通弱者への配慮を行う必要がある。

#### ● 目標

地域の現状に合った利便性の高い交通網の整備を行い、道路渋滞の緩和や交通弱者への配慮を行うとともに、地域内や地域間での交流を活性化させる。

#### ● 具体的な提案

##### ① 公共交通網の整備

市内には様々な特徴を持った地域があり、それぞれの地域に合った公共交通網を整備する必要がある。既存の鉄道・バス路線周辺では、既存路線と一体的に運用し、民間で不足する分を市が補う形で既存路線との共存を図る。中心市街地や住宅集積地では短路線かつ多頻度の循環型コミュニティバスで近距離移動での利便性を高めるとともに、拠点中心の活性化を図る。その他の地域ではオンデマンドバスや乗合タクシーを活用し、低密度地域での利便性の向上を図る。(図4-1)

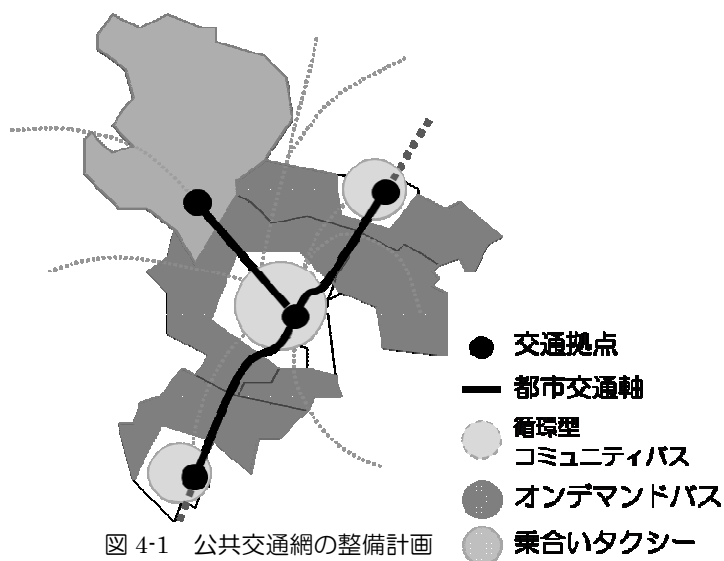


図 4-1 公共交通網の整備計画

##### ② 利用促進

乗り継ぎを意識した運賃、路線設定や、住民目線での運行計画など、利便性の高い交通網を形成する。さらに、ショッピングセンターの駐車場を利用したパーク＆ライドなど、他の交通手段との連携を図り、交通網全体としての最適化を目指す。

また、インターネットや携帯電話を使った路線案内やPR活動を行い、身近な交通機関となることを目指す。

#### B. 交流重点整備計画「キララネット」

##### ● 現状と課題

我々の掲げる「地域と地域つながるまち」を実現する上で、現状として地域間のつながりが希薄である。特にこれまで多くの人々を惹きつけていた土浦駅前の商店街が衰退している。また現在、NPO 法人によって地域コミュニティバス「キララちゃん

んバス」が運行され、協賛店との間で地域通貨「キララ」が利用されているが、“バスの回数券”としての利用に止まっている。したがって、中心市街地の活性化や道路混雑の解消を行い、地域間交流を創出する必要がある。

##### ● 目標

地域通貨を活用し、商店街、農業の活性化や公共交通の利用促進を進め、地域間コミュニティを創出する。

##### ● 具体的な提案

地域間コミュニティ創出の手段として、現在の地域通貨「キララ」を改良する形で導入する。

##### ー「キララ」についてー

NPO法人まちづくり活性化土浦と協賛商店街の間で発行されている地域紙幣。コミュニティバスを利用した上で協賛店にて1000円以上の買い物をすると、100キララを配布。また、NPO法人から1000円＝1000キララで直接購入することができる。100キララはコミュニティバス乗車1回分(100円)に相当し、他の用途には使用できない。

「キララ」を手に入れる機会及び使用できる範囲を広げることにより、より効果的な地域通貨にしていく。例えば、現在の商店街店舗だけでなく、新治地区の農家やNPO 団体にも協賛事業者を拡大し、農作ランティア活動に対して「キララ」を配布する。また協賛店での「キララ」対象商品・サービスや、土浦市内の農家で収穫された地場産品をキララで購入できるようにする。さらに、キララちゃんバスだけでなく、コミュニティ交通網のどの地域でも使用できるように範囲を拡大する。(図4-2)

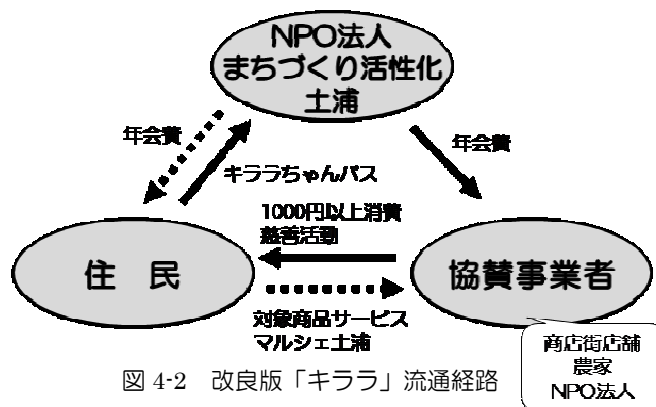


図 4-2 改良版「キララ」流通経路

「キララ」によって公共交通機関の利用や、商品サービスの享受だけでなく、商店街や農家、NPO 法人といった協賛事業者に興味をもってもらう。ボランティア活動への参加の動機づけともなる。

#### C. 地区別重点整備計画

##### (1) 土浦駅周辺地区重点整備計画「あゆみプロジェクト」

##### ● 現状と課題

土浦駅周辺は、土浦市の中心として古くから機能してきたが、大規模商業施設の撤退や都市機能の郊外移転で衰退している。また、国道125号をはじめとする道路混雑も慢性化し、まちの魅力を下させている。そこで、道路環境整備を通して、中心市街地としてのにぎわいのあるまちを取り戻す必要がある。

##### ● 目標

土浦駅周辺地区では(歩きたくなる街)をテーマに、歩行空間の充実化を図り、徒歩による市街地の回遊性を高め、土浦の玄

関口である駅前空間を魅力あるものにする。整備の軸を土浦駅からまちかど蔵までの国道125号線に定め、この軸を中心に整備を進める。

- 具体的な提案

- ① 道路環境整備

徒歩による市街地の回遊性を高めるため、日中(10-16時)を歩行者天国とし、外部からの交通の流入を遮断する。規制区間の移動は徒歩または自転車に限定し、緊急車両、その他許可車両のみを進入可とする。このとき、JICA STRADAでの分析によると土浦駅東側などの道路が混雑する(図4-3)が、公共交通機関の利用促進による流入交通の減少により問題ないものとする。

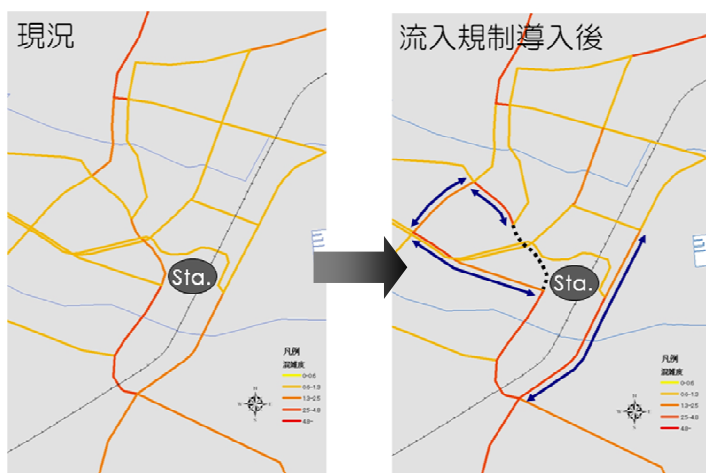


図 4-3 土浦駅周辺流入規制による混雑度の変化

また、まちかど蔵周辺で行われている道路整備を国道125号線の規制区間へ延長し、駅から蔵までの道筋を作る。

- ② 土浦版「マルシェ・ジャポン」の開催

各地域間の交流拠点として、「土浦」の魅力を住民に実感してもらえる場を提供する。

- ー「マルシェ・ジャポン」についてー

農水省が昨年から始めた事業で、仮設施設による直売事業(マルシェ)の運営に助成が行われる。目的としては、経済危機対策、農水産業の活性化と所得向上、地域コミュニティの活性化などが挙げられています。運営ルールとして、同一場所での連日販売は2日まで、店舗は仮設設備に限る、開催地域は政令指定都市と同等の都市で行う、価格は生産者が決める、販売は対面で行うなどがある。

新治地区などで生産された農産物や神立地区などで生産された工業製品の一部を販売する。生産者が消費者に直接語ることができるのが最大の魅力であり、消費者もまた生産者を見ることができるため安心して商品を購入することができる。地域通貨を利用して購入することもできるようにシステムを整え、活発な交流が行われるように促す。

- ③ パーク&サイクルライドの推進

自家用車での来訪者には周辺駐車場等に設置された自転車を貸し出し、自転車での移動を推進する。

- (2) 新治周辺地区重点整備計画「心のふるさと計画」

- 現状と課題

筑波山麓には豊かな自然があり、ふもとの里には古くからの農村の景観が残っている。川沿いの整備済農地での盛んな稲作、畑作に比べ、山沿いの未整備農地では耕作放棄地が目立つ。こ

こでは、都市住民との交流を促し、美しい自然環境や農業の魅力を伝える必要がある。

- 目標

都市住民との交流を通じ、農業や自然環境の大切さを理解する場を設けるとともに、農村集落の持続可能な生活をサポートすることを目指す。

- 具体的な提案

- ① 3種類の農業体験

都市住民と地域住民の関わり具合から、3つのスタイルの農業体験を提案する。

一つ目は観光や教育で一時的に訪れるもので、観光農園や果樹園、古民家などが挙げられる。主に小中学生や家族層を中心とし、貸切バスや自家用車でアクセスしやすい場所に立地する。石岡市八郷地区との連携も視野に入れる。

二つ目は都市に暮らしながら定期的に訪れる市民農園である。農具の貸出や水、肥料の提供により、公共交通機関でのアクセスを促す。農業指導などにより、地域住民との交流の機会を設け、農業への理解を促す。

三つ目は実際に農村に暮らす自給自足型で、集落内の空き家や周辺の住宅と、未整備農地をを貸し出す。農業研修や地域の祭りなど、その地域に定住することを目的とする。環境意識の高さから、里山保全などのボランティア活動も期待できる。

- ② 余剰生産物の直販売

中心市街地での土浦版マルシェなど、生産者が直接販売する機会を設け、市民農園や農村移住者のモチベーションを高めるとともに、都市住民に近い生産者の立場から、農の大切さを伝える。

- (3) 神立周辺地区重点整備計画「神立わくわく工業体験」

- 現状と課題

大規模工場が多数立地し、土浦の工業の中心を担っている。工場周辺には職住近接型の住宅地が立地しているが、都市基盤整備が不十分で住宅地としての価値は低い。道路整備や神立駅の有効活用により住宅地としての価値を向上させる必要がある。また、地域の特色としての工業を住民に発信し、工場と住民との心の障壁をなくす必要もある。

- 目標

職住近接都市としての住環境の改善と、地域の産業としての工業の魅力を住民に発信する。

- 具体的な提案

- ① バリアフリー交通体系の推進

神立駅を中心とした公共交通網を整備し、面的なバリアフリー化を行うことによって、交通網の充実を図る。また、歩道や自転車道を整備することで、住宅地内での安全性や利便性が向上し、住宅地としての価値向上を目指す。

- ② わくわく工業体験

土浦・千代田工業団地を中心に、多数の工場が立地しているが、住民にとって工場で行われているのかは不透明である。そこで、多数の工場が立地している特色を生かし、工業の魅力を住民に発信する場を設ける。大人から子供まで楽しめる見学・体験のしかけや、多岐にわたる工場が連動することで、参加しやすい環境を作る。また、地域通貨や交通網の整備により、工場周辺だけでなく広い地域からの集客を図る。



#### (4) 荒川沖周辺地区重点整備計画「やすらぎタウン」

##### ● 現状と課題

閑静な戸建住宅が立ち並び閑静な住宅街である一方、桜土浦 I.C.や国道6号、学園東大通りなど主要幹線道路が集まる交通の要所でもあり、周辺道路の混雑が激しい。また、荒川沖駅での通り魔事件など防犯面での不安もある。道路混雑解消による利便性向上を図るとともに、住民が安心して暮らせるまちづくりを進める必要がある。

##### ● 目標

周辺道路の混雑解消や防犯対策、公園緑地の整備により、住環境の充実度アップを図る。

##### ● 具体的な提案

##### ① バイパス整備の推進と既存道路の改良

牛久土浦バイパスを整備することにより、国道6号やその周辺道路の混雑が緩和することがJICA STRADAでの分析により確認できた。また、既存道路の歩道整備、凹凸解消、電柱・標識の設置箇所見直しによって、駅周辺と住宅地の歩行空間を確保し、住民の利便性向上を図る。

##### ② 公園緑地の魅力価値向上

荒川沖郊外に立地する乙戸沼公園は、親水性が高く、野鳥がいる長閑な公園として親しまれている。霞ヶ浦総合公園に次ぐ広さで、乙戸沼を1周する桜の並木道は1.8kmにもなる。トイレ整備や歩道路面の改良により利用者の満足度を高めるとともに、隣接する乙戸ファミリースポーツ公園を活用し、屋内運動施設や多目的広場での家族や子供間の交流を促す。また、駅周辺に立地する多数の小さな神社の敷地を緑地化し、駅周辺の緑地化に貢献するとともに、子供の遊び場として活用する。

##### ③ 防犯ステーション計画の推進

平成18年3月に荒川沖駅で発生した通り魔事件を受けて、「土浦市防犯ステーション まちばん荒川沖」が平成19年12月、荒川沖駅東口に開設された(県内初)。運営は土浦市生活安全課で、警察官経験者が最低1人は常駐している。青色防犯パトロール車や徒歩による巡回により、地域の安全確保を目的としている。警察や地域自治体の防犯組織とも連携し防犯活動の強化や防犯組織相互の連携を向上させる。

#### (5) 霞ヶ浦周辺地区重点整備計画「動一よ 霞ヶ浦プロジェクト」

##### ● 現状と課題

土浦駅から比較的に近い距離で霞ヶ浦総合公園や川口運動公園といった市民の憩いの場となれる空間がある。さらに、日本第二位の面積を誇る霞ヶ浦や桜川といった水辺空間が豊富。しかし、川口運動公園は老朽化し常名地区への移転が予定されている。また、水辺空間の魅力を生かし続けておらず、全体的に集客力が低い。したがって、霞ヶ浦や総合公園、運動公園など自然空間を有効活用し、安全で身近なスポーツ施設の提供することにより、魅力ある空間づくりを行う必要がある。

##### ● 目標

霞ヶ浦や近隣公園をとりまく新たなコミュニティの創出や、住民の健康促進、生涯スポーツの発見による生きがいある暮らしの提供により、市民にとって本当の意味で近い霞ヶ浦にする。

##### ● 具体的な提案

##### ① 魅力ある公園づくり

川口運動公園は土浦駅から徒歩8分という立地のよさを考え

ると他の近隣公園には出来ない魅力を秘めている。移転するのではなく大規模な改修を行い、市民が安全に利用できるようにする。ナイター設備やクラブハウスを設置し、より快適に利用できるようにする。また、霞ヶ浦総合公園では市民が直接霞ヶ浦の水に触れられるような親水空間を設ける。

##### ② 憩いの河川敷整備

河口付近の桜川河川敷の整備を行う。運動や娯楽に利用でき、水に触れられるような環境を整備する。

##### ③ 霞ヶ浦スポーツクラブの整備

霞ヶ浦、運動公園、総合公園のさらなる利用を高めるため、様々なスポーツを一元運営する総合型スポーツクラブを設立する。種目には登山やヨット、トライアスロンなどを設け、土浦だけにしかできないスポーツクラブを目指す。

ここでは、市民の定期的、持続的なスポーツ活動を促すため、種目やレベルに多様性を持たせ、各種目とも様々な年齢層、職業体系の市民が利用可能なコースを設ける。また、市内外大会への参加や、大会を主催することで活動の目標を明確にする。単に運動する場としてだけでなく、会員同士が触れ合う機会を設け、コミュニティ形成の場としての役割を担う。

将来的には、NPO法人を取得し、住民が主体となって運営するとともに、既存のスポーツクラブとの連携を強化していく。

## 5. 今後の展望

今後の展望としては各重点整備計画を更なる深度化・検証を行い実現性の向上を図る。具体的に以下のことをあげる。

- 土浦交通ネットで提案するバス路線の決定
- 市や住民に対してのヒアリング調査
- 各重点整備計画の経済分析
- 他都市(つくば、東京等)との連携

## 6. 参考文献

土浦市公式ホームページ <http://www.city.tsuchiura.lg.jp/>

龍ヶ崎市のコミュニティバス

<http://www.city.ryugasaki.ibaraki.jp/COMMUNITYBUS>

東京大学大学院新領域創成科学研究科人間環境学専攻オンデマンドバス

<http://www.nakl.t.u-tokyo.ac.jp/odb/>

コミュニティバス等地域住民協働型輸送サービス検討小委員会報告書

<http://www.mlit.go.jp/jidosha/iinkai/tiikikoutu.pdf>

まちづくり活性化バス「キラウちゃん」

<http://www.tsuchiura.jp/kirarabus/gaiyo.html>

豊田市中心市街地活性化基本計画交通計画編(案)

<http://www.city.toyota.aichi.jp/>

平成17年度八戸市都心再生にぎわいトランジットモール社会実験報告書

<http://www.city.hachinohe.aomori.jp/index.cfm/9,782,18,1,html>

マルシェジャポン <http://www.marche-japon.org/>

関東農政局 <http://www.maff.go.jp/kanto/>

神立駅周辺地区バリアフリー基本構想

[http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1235372052\\_doc\\_34.pdf](http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1235372052_doc_34.pdf)

土浦市バリアフリー基本構想

[http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1241059419\\_doc\\_34.pdf](http://www.city.tsuchiura.lg.jp/cms/data/doc/1241059419_doc_34.pdf)

国土交通省・関東地方整備局 <http://www.ktr.mlit.go.jp/>

茨城県土木部土木事務所

<http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/doboku/01class/class23/>

土浦スポーツ健康倶楽部 <http://tsuchiuraclub.jp>